

Shining ほいく



第30号 令和元年12月16日
編集・発行 保育サービス課研修担当

① 後半の保育サービス課研修から（9月～11月まで）

② 保護者参加型研修の感想

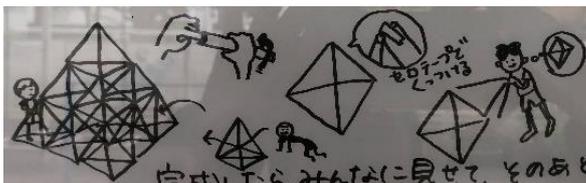


9月6日
科学遊び

「新聞紙ピラミッド」高島平もみじ保育園の実践報告（3・4・5才交流）

幼児クラス自由あそびの日に、ホールで新聞紙を使って遊びました。棒状に丸まった新聞紙を見て「なにができるの？」とわくわくした表情の子どもたち。まず保育士が△を作ってみせると「わかった！」と二人組になり作業に入ります。出来上がると「次は？」とどんどん先に進みたい様子。三個棒をくっつけて△にくっつける。すると、「屋根みたい！」そだけで楽しそう。「くぐっていい？」「壊さないようにね」と話しながらそーっと中へ。「おうちみたい！」そこから「もっと作ってみよう！」「今度は何ができるかな？」と楽しさも二倍に。

新聞紙がなくなると、広告で作ります。新聞紙を棒状に丸めるのはコツが必要で少し難しかったけれど、広告なら自力でもできる子どもたち。大量生産して、あっという間に大きなピラミッドの完成！！完成品を見た子が「公園みたい！！」と感動していました。作った子たちは満足顔！(^^)！最後はみんなに披露して幼児クラス全員でピラミッド二つを歩いていきました。意外とみんな慎重で60人ほどが通っても壊れませんでした



西台保育園の実践報告 (3才児クラス)

保育士が新聞紙を出すと「何作るの?」と子どもたちが集まってきました。「新聞紙を丸めて長い棒を作っているの。何かおもしろいものができるかな?」と言うと、「やりたい、やりたい」「ぼくもできるよ」「私も上手にクルクルできるよ」と新聞紙を丸めだしました。

長い棒になると「わぁ、長い」と一本作って満足してずっと手に持っています。戦いごっこが始まるかと思いましたが、「もっと作りたい」と言う子がほとんどで夢中になって作っていました。何本か作り終わると振り回して遊ぶ子が増えましたが、保育士がテーブルで棒をつけ始めると「今度は何しているの?」



と興味津々。フニャフニャとへビのように動かすのを大笑いして見えています。それを三角にすると「先生すご〜い」と拍手。「なんでフニャフニャなの?」「えっ?何で?」と喜びの声が次々と。

更に繋げて三角すいにして床を転がし始めると「わぁ、すごい」「転がるの?」と目を輝かせます。三角すいの持つ場所を変えることでピラミッドの形が変わるのを不思議がり、「すごい、すごい」を連発していました。「ぼくもしてみた〜い」と、そーっと持ったりしながら加減をしていました。それを更に繋げて大きなピラミッドになると「大きいね」「すごいね」「ここ入れる?」と中に入れてみようとしていました。他クラスの保育士に「見て、ぼくたちが作ったんだよ」と得意そうでした。

「ぼくが」ではなく「ぼくたちが作った」という表現になり、皆で一緒に作ったという意識、友だちとの繋がる気持ちが言葉にも出ていて成長を感じました。



ここを持つと
フニャって
するんだ…



10月2日

乳児保育

グループワーク

「環境構成について事例を持ち寄り学ぶ」



赤塚保育園

前半は講義、後半はグループで事例を持ち寄り意見交換し、最後に各グループで発表を行いました。講義では環境構成についての基礎知識や、保育者が意図的に環境を設定することの重要性を学びました。

目に見えるものをそのまま受けるだけの遊びでなく、子どもたちが自ら自然物や人のかかわりの中で工夫して遊びを広げていくにはどうしたら良いのか?また安全な環境の中でいかにのびのびと遊ぶことができるのか?今後工夫していきたいと思いました。

グループワークではそれぞれの園の工夫点を学んだり、意見交換をすることができました。

乳児の中でも特に0歳児クラスは子どもの成長により遊びの変化が著しい年齢であり、環境設定は日々考えていかなければいけない課題となります。1歳児クラスはどの園も合同保育で使われる部屋であることが多いため、環境設定はより難しくなります。コーナーごとに玩具が配置されていても、

時にはまざってしまうこともあります。例えば、ままごとコーナーに食べ物に見立てたブロックが入ることもあります。それは子どもが見立て遊びができている証拠だと捉え、柔軟に対応できるようになりたいと思いました。

相生保育園

「環境」は子どもにとって大切なことの一つですが、自分の担当クラスの子どもたちにとって「この環境で本当にあっているのかな?」「もっと良い環境設定があるのでは?」と悩むことが今までありました。

今回の研修を受け、環境設定を行う意味や各園の環境設定の工夫を学ぶことができ、とても勉強になりました。中でも、人的環境の工夫は今後の保育に活かしていけると思いました。子どもに片付けや思いやりを持った言葉かけを行って欲しいならば、保育士が片付けを丁寧にする姿や優しく声をかける姿を見せることで子どもが自然と意識し、行動できるようになる等、保育士の行動一つで環境をより良くできると改めて感じました。私も片付けの際、スピード重視でついガラガラと音をたて片づけてしまうことがあるので気を付けたいと思いました。

物や空間、時間の環境設定は、保育室の造りや金銭面等ですぐに変えることが難しいですが、人的環境は保育士の意識ですぐに変えることができるので、子どもにより良い環境を提供できるよう今後意識して保育を行っていきたいと思います。



9月25日

『保育でつむぐ子どもと親とのいい関係』（保護者参加型研修）

～保護者からの感想～

講師 井桁 容子先生

心豊かな子どもを育てていくためには、日々の保育や子育ての中で、大人がかける言葉かけの大切さを改めて考える機会となりました。子どもの感じる様々な感情と一緒に感じることができる大人でありたいことを、保護者と共有できた研修でした。

気を付けていてもつい「ダメ!」などの否定的な言葉を使いがちですが、今回のお話を聞いて、その言葉を使う前に、まず子どもの気持ちを受け止めてあげることが大切なんだと改めて思いました。子育てにはユーモアが必要なんだな～と感じました。お父さんにも、こういうお話を聞く機会があるといいと思います。

「言われたことをちゃんとやらなきゃいけない、と思っている大人が自由な発想の子どもをつぶしている」という先生のお言葉にまずショックを受けました。「ゴメンナサイ」を言わせたがる親が私だと深く反省。共感し、思いを言わせてあげないといけないですね。「抱っこ抱っこー!」も安心させてあげられるまでしてあげればいい。すぐにできることは色々ありそうです。息子の激しい感情の一因は自分にありそうです、大変勉強になりました。ありがとうございました。





久しぶりにお話を聞ける機会をいただき、ありがとうございました。容子先生のように広い視野、ユーモアあふれる対応、言葉かけができたら・・・といつも思いますが、無いものねだりです。どんな時も一人の人としてかわり、これからも些細な子どもの行動で一喜一憂する毎日を大切にしたいと思います。何故かホッと安心、心温かくなる講演、ありがとうございました。

今回の研修会は、保護者も来ている事もふまえ、その上で、”未来の保育とは”という大きな課題について、とても生産性のあるお話を、例をひとつひとつあげ、わかりやすい写真も加えて説明くださったので、とても引き込まれました。子ども一人ひとり、全く違う育児をしていかななくてはならない中で、トータルデータではなくどうやって向き合って、お互いに成長できるかという繊細な部分を明るく楽しく伝えてくださり、帰り道はさらに優しい目で子どもを見守れました。

とても有意義な研修で大変参考になりました。声かけ、捉え方、考え方ひとつで、子どもも大人も楽しくなるなあと思いました。



とてもためになる内容で、自分の子育ての中では「これダメ、あれダメ」とたくさん言ってしまうたり、ふり返ることができたので、早速研修後のお迎えの時から実践させて頂いています。笑うこと、セトモノの食器を使うこと、泣くことを受けとめてもらうこと、などすごくたくさん学びがありました。

育児に前向きになれる内容でした。井桁先生の講演をもっと聞きたいと思いました。機会を設けていただきたいと思います。宜しくお願いたします。

